

被服製作実習を支援する授業展開についての試み（その3）

～被服解体を通して～

檜 崎 久美子

(2011年11月11日受理)

A study of the class development for Dressmaking (Part3)

– By dismantling clothing –

Kumiko NARAZAKI

はじめに

一昨年の本紀要において、「被服製作実習を支援する授業展開についての試み」と題し、授業の中で被服を解体することによって、被服構成についての理解を深めさせ、さらにその後の被服製作の授業での創作活動をいかに手助けできるか、という目的で実験を行った結果を報告した¹⁾。その結果をふまえ、改善した授業を行い、昨年の本紀要にて「被服製作実習を支援する授業展開についての試み(その2)」と題し、報告を行った²⁾。第2報での結論は、解体する被服の種類によっては、不要になった被服はすぐに廃棄をするのではなく、授業の教材という新たな使途を与えることができるという視点の獲得が特筆すべき点であった。また、授業内容の改善から理解度が上がった様子も見て取れた。ただし、同日に行った被服の部分名称やデザインの名称については活用度が低かったことから、以下の課題を挙げている。まず、ワンピース制作のための被服解体であるという目的を学生に伝え、それを意識した上で作業を行わせる必要があることである。また、自由記述における表現方法の改善、部分名称、デザイン用語だけでなく、解体する際に出てくると思われる付属品に対する基礎知識の事前獲得である。

よって、今回は解体前後の専門用語の説明の徹底、配布資料への気づきの書き方の指導をより丁寧にすることで、今後の被服製作実習を支援する、被服構成の理解力と被服を正確に観察・分析できる力を養うことを目的として、指導及び調査を行った。

先行研究と被調査者の現状について

これまでに挙げた論文の他に、植村千春氏による「授業実践例 デザインを形にする—専門学科における「被服製作」の授業実践(年間テーマ原点を見つめながら働くということ)」³⁾、長山芳子氏による「大学生の小・中・高校時における被服製作経験とミシン実習後の変容—初等教員養成のためのハンカチ袋作り授業効果」⁴⁾など大学生を対象にした被服製作をテーマとした研究が近年目立つようになってきた。現在は被服の専門学科や初等教員を目指している将来被服製作の機会が多いであろうと予測される大学生を対象にした研究が主である。しかし、今後ゆとり教育世代が大学入学を果たす中、被服製作能力が未熟であることから全体の被服教育の強化のためすべての大学生を対象にした研究は今後増えていくことが予測される。

さて、今年度の被調査者も事前の調査によると昨年同様高校での家庭科の授業では主に食物に関わる実習はしているものの、被服実習をしたという学生は少なかった。前述したようにゆとり教育世代である被調査者は小・中・高において被服製作の機会はかなり少なく、昨年同様ミシンを使用した授業は小学校までさかのぼるという被調査者も今年は複数いた。しかし、昨

年以上にアパレル、ファッションに興味を持っている学生多く、「ファッション・デザイン実習Ⅱ」を受講する被調査者は4割増となった。また、昨年に引き続き、中・高の家庭科教員免許取得を目指す学生が3分の1程度おり、授業に対する態度が大変まじめで、丁寧であったことが特記すべき今年度の被調査者の背景であると思われる。

方 法

1) 調査対象

広島女学院大学で行われるファッション・デザイン実習Ⅱ（洋裁）を受講する学生34名

2) 調査日

2011年10月4日及び10月11日

3) 方法

①被服構成に関する基礎知識として、洋服（シャツ・パンツ・スカート）の部分名称を解説する配布資料を用い、被調査者に問いかけながら、番号と部分名称の板書を行う。（10月4日実施）

昨年制作した資料と同様のものを使い、部分名称を解説したが、知っている部分名称もあるだろうと予測し、今年は被調査者を不規則に指名し、わかるところを答えさせた。単に板書を行うだけでなく、自分自身で考えるよう促すことによって、部分名称についての印象を深める狙いがある。

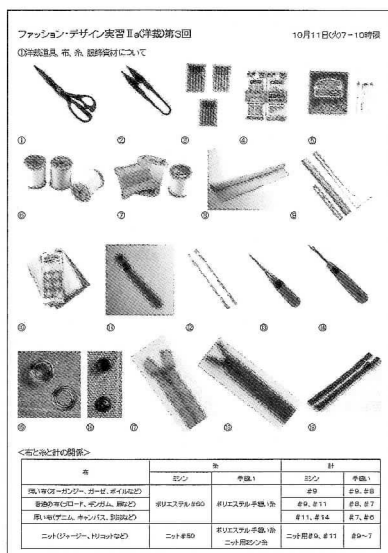
②ワンピースデザインにも使用できる部分名称やデザインに関する用語についても昨年使用した配布資料を用い、書き込みを行う。（10月11日実施）

確認した用語については昨年と同様であり、被調査者が偶然着用していた被服も利用して理解を深めさせた。

③洋裁用具と服飾資材についての資料（図1）を配布し、書き込みを行う。（10月11日実施）

昨年付属品の名称についてある程度知識がある方がよい、という結論が出たことから不要服解体の前に資料を配布し、名称を書きこませることで確認を行った。

洋裁用具を確認することによって、実習中に自分が必要な道具は何かを説明する能力を獲得したと言える。また、被服解体の手順は、実際被服製作を行う時でも失敗した場合などに同じことを行う可能性が高く、用具に慣れ、縫い合わさった場所をほどくという行為に慣れるという今後につながる作業であることも改めて気付くことができた。

図1 洋裁用具と服飾資材についての資料⁵⁾

④被服構成に関して気付きを促す配布資料を用い、学生それぞれに被服の解体を行わせる。(10月11日実施)

解体する被服は各自で廃棄する予定の不要服を使用した⁶⁾が、数名持ってくるのを忘れたため複数名での解体をしたグループがいる。その場合は本年度の報告では同じ解体被服記号を振っている。

配布資料には、まず、文頭に「目的」と題し、「被服を解体することで、その服を構成している被服のパーツを確認する。そして、パーツの形や数、縫い合わせている位置などを確認することによって、2D(平面)がいかに3D(立体)になったかを理解し、今後のデザイン画における切り替えや袖付け、衿ぐりのデザインやワンピース制作に活かす。」と明記した。同時に、授業内で注目させて音読することで被服解体の目的をはっきりと指導した。今年度においてはワンピースとショートパンツの制作を控えている被調査者であるが、来年度は各自が自由にデザイン画を描き、それを元に大学祭におけるファッションショーの衣装を制作することから上記の内容を目的とした。

次に、配布資料に「持参した被服の種類：アイテム名、色柄・パーツの特徴(例：五分丈袖ブラウス(白地に赤のドット、丸衿))」と書いた下の空白へ各自持参した不要服についての説明を書かせた。なお、不要服の種類について今回の報告では被調査者が記述したままを掲載する。

続いて<裁断する前に>と題し、配布資料へ何枚の布を合わせてその被服ができているか、

予想パーツ枚数を記入させる。その後、裁断を行わせた。

裁断が終わったら「裁断した後は…」と題して、何枚の布に分断させることができたか、パーツ数を記入し、袖ぐりの形、衿ぐりの形を見て、それぞれ印象変化を自由記述させた。なお、パンツを持参した学生については、袖ぐりの欄には股ぐりの形を見ての印象変化を、衿ぐりの欄には周囲の上衣を解体したものを観察し印象変化を書くよう指示を行った。

最後に、解体被服全体の観察を通しての自由記述をさせた。

⑤解体した被服を用いて、被服の部分名称の再確認と解説を行う。（10月11日実施）

昨年は口頭で解体した各パーツに部分名称を直接書き込ませ授業を終了したが、その折に未記入のパーツや書き込み間違いをしているものが何名か見受けられた。よって、今回はまず、配布資料を準備させ、それを見ながら各パーツの名称をチャコペンで直接被服に書き込ませた。更に、被調査者番号19の解体した上衣パーツを用いて、黒板に貼り付け、解説を行った。また、被調査者番号26の解体した下衣パーツを用いて、同様に黒板に貼り付け、解説を行った。

4) 使用した道具

不要服、裁ちばさみ、糸切りばさみ、リッパー、定規、チャコペン



写真1 作業の様子 ブラウスを解体する被調査者

結果及び考察

1) 解体した被服について

被調査者が持参した被服は、長袖シャツ・ブラウス16点、三分丈袖ブラウス1点、七分丈袖ブラウス3点、デニムパンツ1点、七分丈デニムパンツ2点の計23点であった。

今回持参した不要服のうち、男児用パンツが1着あった。また、昨年と比べて高校の制服のブラウスを持参する被調査者は少なく、色柄入りのブラウスを持参した学生が今回は目立った。

また、不要服として持参したものの、別の被調査者が気に入り、リユースに至ったケースが1点見られ、これについては被服の再利用について考える機会に偶然ではあるが、なったと思われる。なお、持ち主である被調査者は別の学生と共に不要服を解体した。

昨年同様、事前に不要服の指定を行ったので、解体にふさわしい被服が持参されたが、この授業を行って必ず書かれる「解体が疲れた」という事態を避けるためには、解体そのものは共同作業でもよいと考えられる。特に今年度の被調査者はほぼ全員がリッパーを用いて丁寧に解体を行ったため、解体作業時間が長時間かかってしまった。特にできるだけ丁寧に、と指示は出したものの、その後裁ちばさみで大きく切つてよいところはそうするよう指示をしても、最後までリッパーでの解体を続けたため、持参した不要服の解体を授業時間内に終わらせることができない被調査者が2名出た。学習目的は解体をすることそのものではないため、最も良い方法として、不要服1着に対して2～3名で作業を行い、解体作業時間を短くすることで集中力の低下を防ぎ、かつ、共同作業であることから解体の効率化も図られ、解説時間も十分に取ることができると考えられる。

2) 被服構成パーツについて

①解体前と解体後の被服構成パーツ枚数について

被調査者は被服解体前にまず被服を5分程度観察し、構成パーツ枚数を数え、配布資料に記入を行った。その後、実際に解体したのちはそれらを広げて、実際の構成パーツ枚数を数え、記入した結果は以下のようになった(表1)。

これまでの結果同様、ほとんどの被調査者は実際のパーツ数より少ない数を解体前に記入しており、十分に被服の構成について意識を働かせているとは言えない状況であることが確信できる。

また、昨年同様解体後に被調査者に確認してもらった被服パーツ数が正しいかどうかの確認を行ったところ、表1のような結果となった。昨年の反省を踏まえ、接着芯もパーツの一部として数える、と授業内で指示したところ、注意が促され正解を出す被調査者も出た。ただし、昨年よりも被調査者の数が多くなったことから、教室後方へ着座している被調査者のパーツの正答率がやや下がってしまったようにも感じられる。

なお、今回解体前の写真撮影を失念した。実質的に当日の授業中の撮影作業は困難であることから、事前に不要服の前・後ろの写真は被調査者に携帯電話のカメラ機能を使って撮影して観察しておくという課題を与えることでこの点については解決すると考える。そして、解体後

にその写真と見比べ、印象変化などを記入させることでより深い考察を行うことが可能であるとも考えられる。

表1 被服解体前と解体後の構成パーツ数の変化

被験者 番号	解体被服 記号	解体被服名	裁断前 予想パーツ数	裁断後 パーツ数	正しい パーツ数
1	A	長袖Yシャツ(白地にストライプ)	8	18	22
2	A	Yシャツ	8	18	22
3	B	ブラウス(青の花柄)	12	10	16
4	B	ブラウス、花柄	12	10	16
5	B	花柄のブラウス	12	10	16
6	C	七分丈デニムパンツ(男児用)	14	21	21
7	C	短パン、ジーンズ	16	21	21
8	D	ブラウス、水色、 リストレングススリーブ	12	18	24
9	D	リストレングススリーブブラウス、 水色、三角衿	12	18	24
10	E	長袖ブラウス	9	13	18
11	F	七分丈袖シャツ	11	20	21
12	F	七分袖シャツ	11	22	21
13	G	赤い、七分丈、胸元にダーツ、 カフスにスリット、背中ダーツ	15	11	15
14	G	赤い、七分たけ、胸元にダーツ、 カフスにスリット、背中ダーツ	10	15	15
15	H	ブラウス、水玉、リストレングス	14	33	32
16	I	カッターシャツ、長袖、黒	11	19	27
17	J	ブラウス、フリル付き、丸衿、ぎなり	5	26	40
18	J	ブラウス(長袖、丸衿、生成)	5	26	40
19	K	カッターシャツ、白地、制服用	11	18	24
20	L	リストレングススリーブ(長袖)カッター シャツ、白地に水色、紺色のチェック	11	19	26
21	M	七分袖シャツ	10	15	33
22	N	白色カッターシャツ(ブラウス)、 三角衿	11	23	26
23	O	ダンガリーシャツ	14	28	38
24	P	シャツ	7	14	24
25	Q	シャツ	8	15	20
26	R	デニムパンツ、黒、ストレート?	18	22	24
27	S	カッターシャツ、白、長袖	10	22	22
28	T	三分丈袖シャツ、白の無地	7	10	13
29	U	ショッキングピンク、七分丈、 タイト、ストレッチ入り、中国	11	15	20
30	U	ショッキングピンク、七分丈、 タイト、ストレッチ入り、中国	11	15	20
31	V	シャツ、ピンクと白、衿、 リストレングススリーブ	23	24	37
32	V	シャツ、ピンクのストライプ柄、長袖	23	24	37
33	V	リスロレングススリーブのシャツ、 ピンクと白のしま模様	23	24	37
34	W	シャツ、黄色、ギンガムチェック、長袖	10	13	22

②付属品について

今回も付属品についても配布資料に記述するよう指示をした。被調査者は昨年とは異なり、解体後に被服についている付属品を確認し、その種類と数を記入した(表2)。

表2 被服の種類と付属品一覧

被験者 番号	解体被服 記号	解体被服名	付属品と数
1	A	長袖Yシャツ(白地にストライプ)	ボタン10個(大8 小2)
2	A	Yシャツ	ボタン10個
3	B	ブラウス(青の花柄)	ボタン小10個 タグ 1種
4	B	ブラウス、花柄	ボタン小10個 タグ 1種
5	B	花柄のブラウス	ボタン小10個 タグ 1種
6	C	七分丈デニムパンツ(男児用)	ボタン3個 留め具(?)3個 ファスナー1個 ウエストベルトの内側 に入っていたゴム1本
7	C	短パン、ジーンズ	ボタン3個 ゴム1本 変なボタンもどき4個
8	D	ブラウス、水色、 リストレングススリーブ	ボタン8個 タグ3種
9	D	リストレングススリーブブラウス、 水色、三角衿	ボタン7個 タグ3種
10	E	長袖ブラウス (白色、前と後ろにダーツ)	ボタン5個 タグ2種
11	F	七分丈袖シャツ (白地に水色のチェック)	ボタン8個 タグ2種
12	F	七分袖シャツ (白地に水色のチェック)	ボタン8個 タグ2種
13	G	赤い、七分丈、胸元にダーツ、 カフスにスリット、背中ダーツ	ボタン4個
14	G	赤い、七分丈、胸元にダーツ、 カフスにスリット、背中ダーツ	ボタン4個
15	H	ブラウス、水玉、リストレングス スリーブ(長袖)、白地に茶の水玉	ボタン14個 タグ3種
16	I	カッターシャツ、長袖、黒	ボタン12個 タグ3種
17	J	ブラウス、フリル付き、丸衿、きなり	ボタン8個 タグ5種
18	J	ブラウス(長袖、丸衿、生成)	ボタン8個
19	K	カッターシャツ、白地、制服用	ボタン11個 タグ4種
20	L	リストレングススリーブ(長袖)カッター シャツ、白地に水色、紺色のチェック	ボタン12個 タグ3種
21	M	七分袖シャツ	ボタン8個 タグ1種
22	N	白色カッターシャツ(ブラウス)、 三角衿	ボタン9個 タグ2種
23	O	ダンガリーシャツ	ボタン26個
24	P	シャツ	未記入
25	Q	シャツ	ボタン10個 タグ3種
26	R	デニムパンツ、黒、ストレート?	未記入
27	S	カッターシャツ、白、長袖	ボタン13個 タグ3種
28	T	三分丈袖シャツ、白の無地	ボタン7個 タグ3種
29	U	ジョッキングピンク、七分丈、 タイト、ストレッチ入り、中国	ボタン3個 留め具1セット タグ3種
30	U	ジョッキングピンク、七分丈、 タイト、ストレッチ入り、中国	ボタン3個 留め具1セット タグ3種
31	V	シャツ、ピンクと白、衿、 リストレングススリーブ	ボタン11個 タグ2種
32	V	シャツ、ピンクのストライプ柄、長袖	ボタン11個 タグ2種
33	V	リスロレングススリーブのシャツ、 ピンクと白のしま模様	ボタン11個 タグ2種
34	W	シャツ、黄色、ギンガムチェック、長袖	ボタン 大10個 小4個 タグ2種

しかし、昨年に比べ記述内容がやや雑であった。やはり解体後には集中力がかなりなくなっているように感じられる。その一方、表には記載していないが、部分名称を学んだことに起因するのか、付属品ではなくパーツ名とその数をすべて書き込んだ被調査者が10名いた。部分名称に対する意識が高まったことが確認できるが、指示は正確に行わなければならないことも同時に示唆している。



写真2 解体した不要服のうち最もパーツ数が多かった被服(J)(解体前)

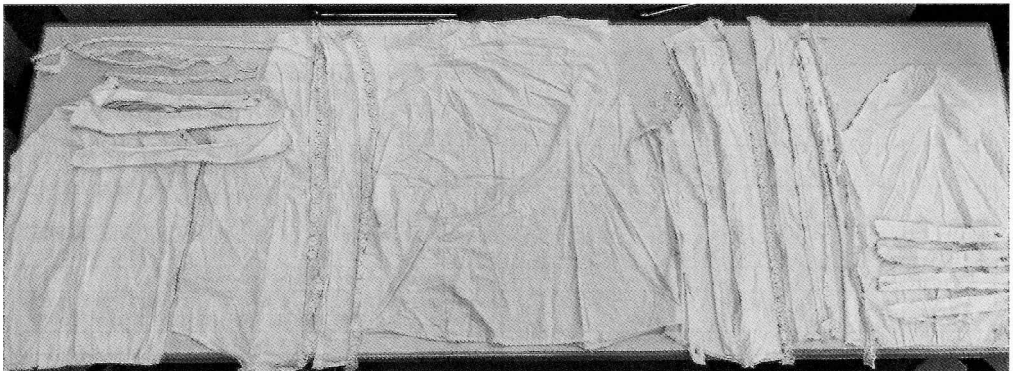


写真3 解体した不要服のうち最もパーツ数の多かった被服(J)

3) 被服解体前と解体後の印象記述内容について

①袖ぐりについて

調査者は解体後に解体前と袖ぐりの印象がどのように変化したかを自由に配布資料に記入した。その結果は表3の通りである。

被調査者の中には「被服構成学（含実習）」という授業を受講し、被服の構成について一定の知識を持っているものがある。それについては一昨年昨年と変わらないが、今年その授業と

関連付けてコメントした学生が出た。こういった学生が今後増えることを期待したいが、そういったことを思い出させるための仕掛けも必要になるのも事実である。

表3 袖ぐりに関する印象変化

被験者番号	解体被服記号	解体被服名	衿ぐり印象変化
1	A	長袖Yシャツ(白地にストライプ)	衿のところの布は他のところに比べて堅くなっていた。頑丈に作ってあった。
2	A	Yシャツ	見た目よりもたくさんのパーツでできていた。
3	B	ブラウス(青の花柄)	表と裏はそれぞれ違う布を使っていると思っていたが、実際は一枚の布を折って縫い合わせていた。
4	B	ブラウス、花柄	1つのパーツに2枚の布が使われていたので、思ったより布が多かった。
5	B	花柄のブラウス	衿ぐりは立体だと丸いのに裁断すると真っすぐな布(台衿)ととてもゆるいカーブをおびた布(衿)でできていた。
6	C	七分丈デニムパンツ(男児用)	衿ぐりは普段着る時ぐるっと丸みのある形だけど、裁断すると平面で長細かった。
7	C	短パン、ジーンズ	見た目に反して枚数が多い。
8	D	ブラウス、水色、リストレングススリーブ	裁断する前はかたくてカチッとした印象だったのが、バラバラにしたことでやわらかく、ふにゃふにゃになってしまった。
9	D	リストレングススリーブブラウス、水色、三角衿	はい、予想以上に布が使われていた。
10	E	長袖ブラウス(白色、前と後ろにダーツ)	はい！衿だけに3枚も使っていると思わなかった、1枚かと思った。
11	F	七分丈袖シャツ(白地に水色のチェック)	衿ぐりの印象は変わりました。予想以上にバラバラに解体されました。
12	F	七分袖シャツ(白地に水色のチェック)	変わった。カーブしているものだと思っていたが、案外水平に近いと思ったから。
13	G	赤い、七分丈、胸元にダーツ、カフスにスリット、背中ダーツ	衿が2枚だった。
14	G	赤い、七分丈、胸元にダーツ、カフスにスリット、背中ダーツ	衿が2枚だった。接着芯が入っていた。
15	H	ブラウス、水玉、リストレングススリーブ(長袖)、白地に茶の水玉	すべてに接着芯が入っていて思ったよりしっかりした作りだった。
16	I	カッターシャツ、長袖、黒	2枚が重なっていたり、台衿が付いており、布が多くあったため難しい作りだと印象が変わりました。
17	J	ブラウス、フリル付き、丸衿、きなり	大きく開いていると思っていたが意外に小さいので全然印象が変わった。
18	J	ブラウス(長袖、丸衿、生成)	思っていたより小さかった。首は腕ほどは動かさないのでそれほどゆとりはなくても大丈夫なのだった。
19	K	カッターシャツ、白地、制服用	変わった、いつも広げると放物線を描いていたので、切っても放物線だと思ったが、直線だった。
20	L	リストレングススリーブ(長袖)カッターシャツ、白地に水色、紺色のチェック	思ったより丈夫に作られていると思いました。衿は1枚の布かかと思っていたけど私のシャツは5枚の布が出てきたので
21	M	七分袖シャツ	変わりました。2枚の布が含まれていました。
22	N	白色カッターシャツ(ブラウス)、三角衿	衿を裁断すると布が2つにわかれて、台衿と衿があることが分かった。また、衿も袖と同じく縫う部分は2つに折りこんで
23	O	ダンガリーシャツ	ペーパーが入っていたことを初めて知りました。
24	P	シャツ	衿口にもわたが入っていた。
25	Q	シャツ	特にありません。変化があまり分からなかった。
26	R	デニムパンツ、黒、ストレート?	変わった。あまり注目してみたことがなかったので改めて見ると必要な部分だと確認できた。
27	S	カッターシャツ、白、長袖	変わった。1枚だけでなく、芯のようにになっているパーツもあった。
28	T	三分丈袖シャツ、白の無地	衿ぐりは裁断する前と裁断してからあまり変わらない。
29	U	ショッキングピンク、七分丈、タイト、ストレッチ入り、中国	見た目よりもたくさんのパーツでできていた。(ブラウス)
30	U	ショッキングピンク、七分丈、タイト、ストレッチ入り、中国	見た目よりもたくさんのパーツで合っていた。(ブラウス)
31	V	シャツ、ピンクと白、衿、リストレングススリーブ	変わらなかった。衿ぐりは1枚の布でできていた。
32	V	シャツ、ピンクのストライプ柄、長袖	変わりませんでした。
33	V	リストレングススリーブのシャツ、ピンクと白のしま模様	変わった。袖ぐりの印象と同じで裁断前より大きく感じた。
34	W	シャツ、黄色、ギンガムチェック、長袖	多くの布で構成されていた。

また、これまでの調査結果と比較して今年目を引いたコメントとしては袖口の構成についてのコメントが激増したことである。これまでも数名いたが、質問に対して適切な記述をしていないのは今後の授業内容についての理解を阻害するものであり、より丁寧な観察ポイントの誘導が必至であることが指摘できる。

しかし、質問に対する適切ではない答えは、逆に学生が注目する点を明確にしていると言い換えることもできる。記述内容に注目してみると、多くの学生が形状ではなく、構成パーツの枚数を書いており、袖口、つまりカフスの部分には多くの布を使っており、丈夫であるという印象を持っている。これについても記述すべきことが違う、と否定するのではなく、それはそれで、袖口になぜそのように多く布が使っているのか理由を考えさせ、被服構成においてどういった布使いが適切であるかを指導する材料として活用できるものであるということが明らかになったと言える。

最後に、この質問項目の狙いは袖ぐりは裁断する前の印象としては円筒型に見えるが、実際は山を描き、前と後ろでカーブが異なっていることを理解することである。これまでただ印象を書かせて終了してきたが、今後の指導法として、記述した内容を訂正させた上で、正解を伝えるという機会を今後設けることが理解を深める上で重要であると考えられる。

②衿ぐりについて

調査者は解体後に解体前と衿ぐりの印象がどのように変化したかを自由に配布資料に記入した。その結果は表4の通りである。

こちらも袖ぐりの記述同様、衿ぐりそのものに記述というよりは衿の構成パーツについて記述しているものが目立っていた。袖ぐり同様、衿を首に綺麗に添わせるためにどのようなカーブが必要なのかという理解を深めるためにこの質問項目を置いているが、質問をするだけでなく、解説をすることで今後の被服製作への発展が望めると考えられる。

表4 被服解体前と解体後の衿ぐりに関する印象変化

被験者 番号	解体被服 記号	解体被服名	衿ぐり印象変化
1	A	長袖シャツ(白地にストライプ)	衿のこちらの布は他のところに比べて堅くなっていた。頑丈に作ってあった。
2	A	Yシャツ	見た目よりもたくさんのパーツでできていた。
3	B	ブラウス(青の花柄)	表と裏はそれぞれ違う布を使っていると思っていたが、実際は一枚の布を折って縫い合わせていた。
4	B	ブラウス、花柄	1つのパーツに2枚の布が使われていたので、思ったより布が多かった。
5	B	花柄のブラウス	衿ぐりは立襟だと丸いのに裁断すると真っすぐな布(台衿)ととてもゆるいカーブをおびた布(袴)でできていた。
6	C	七分丈デニムパンツ(男児用)	衿ぐりは普段着る時ぐるっと丸みのある形だけど、裁断すると平面で長細かった。
7	C	短パン、ジーンズ	見た目に反して枚数が多い。
8	D	ブラウス、水色、リストレングススリーブ	裁断する前はかたくてカチッとした印象だったのが、バラバラにしたことでやわらかく、ふにゃふにゃになってしまった。
9	D	リストレングススリーブブラウス、水色、三角衿	はい、予想以上に布が使われていた。
10	E	長袖ブラウス(白色、前と後ろにダーツ)	はい！ 袴だけに3枚も使っていると思わなかった、1枚かと思った。
11	F	七分丈袖シャツ(白地に水色のチェック)	衿ぐりの印象は変わりました。予想以上にバラバラに解体されました。
12	F	七分袖シャツ(白地に水色のチェック)	変わった。カーブしているものだと思っていたが、案外水平に縫いとったから。
13	G	赤い、七分丈、胸元にダーツ、カフスにスリット、背中ダーツ	衿が2枚だった。
14	G	赤い、七分丈、胸元にダーツ、カフスにスリット、背中ダーツ	衿が2枚だった。接着芯が入っていた。
15	H	ブラウス、水玉、リストレングススリーブ(長袖)、白地に茶の水玉	すべてに接着芯が入っていて思ったよりしっかりした作りだった。
16	I	カッターシャツ、長袖、黒	2枚が重なっていたり、台衿が付いており、布が多くあったため難しい作りだと印象が変わりました。
17	J	ブラウス、フリル付き、丸衿、ぎざり	大きく開いていると思っていたのが意外に小さいので全然印象が変わった。
18	J	ブラウス(長袖、丸衿、生成)	思っていたより小さかった。首は胸ほどは動かさないのでそれほどゆとりはなくても大丈夫なのだった。
19	K	カッターシャツ、白地、制服用	変わった、いつも広げると放物線を描いていたので、切っても放物線だと思ったが、直線だった。
20	L	リストレングススリーブ(長袖)カッターシャツ、白地に水色、紺色のチェック	思ったより丈夫に作られていると思いました。衿は1枚の布かと思っていたけど私のシャツは5枚の布が出てきたので
21	M	七分袖シャツ	変わりました。2枚の布が含まれていました。
22	N	白色カッターシャツ(ブラウス)、三角衿	衿を裁断すると布が2つにわかれて、台衿と袴があることが分かった。また、袴も袖と同じく縫い部分は2つに折りこんで
23	O	ダンガリーシャツ	ペーパーが入っていたことを初めて知りました。
24	P	シャツ	衿口にもわたが入っていた。
25	Q	シャツ	特にありません。変化があまり分らなかった。
26	R	デニムパンツ、黒、ストレート?	変わった。あまり注目してみたことがなかったので改めて見ると必要な部分だと確認できた。
27	S	カッターシャツ、白、長袖	変わった。1枚だけでなく、芯のようにになっているパーツもあった。
28	T	三分丈袖シャツ、白の黒地	衿ぐりは裁断する前と裁断してからあまり変わらない。
29	U	ショッキングピンク、七分丈、タイト、ストレッチ入り、中国	見た目よりもたくさんのパーツでできていた。(ブラウス)
30	U	ショッキングピンク、七分丈、タイト、ストレッチ入り、中国	見た目よりもたくさんのパーツで合っていた。(ブラウス)
31	V	シャツ、ピンクと白、袴、リストレングススリーブ	変わらなかった。衿ぐりは1枚の布でできていた。
32	V	シャツ、ピンクのストライプ柄、長袖	変わりませんでした。
33	V	リストレングススリーブのシャツ、ピンクと白のしま模様	変わった。衿ぐりの印象と同じで裁断前より大きく感じた。
34	W	シャツ、黄色、ギンガムチェック、長袖	多くの布で構成されていた。

4) 被服解体後の印象について

被服解体作業終了後、調査者に改めて解体した構成パーツを大きく広げさせ、観察を行わせた。さらに、解体した被服を使って、見返しの確認や衿の形、袖などを黒板に掲示し、それを

見ながら自らが解体したパーツに名前を書くよう指示した。

以上の全ての作業を終了した後、解体作業全体に関する印象を自由記述させた。（表5）

表5 解体した構成パーツに関する説明後の全体的な印象

全体的な印象・感想
裁断する前の服は立体的になっているけど、裁断してみるとどのパーツも1枚の布でまっすぐになっていた。
見た目よりもたくさんのパーツから服ができていた。
前身頃のボタンホールの部分と台衿が折り返して縫ってあったので予想よりも枚数が少なかった。
折り返してあったので、思っていたより全体の枚数が少なかった。袖の左右を見分けるのが難しかった。
前身頃のボタンホールの部分や台衿が折り返して縫ってあったため、予想よりも枚数が少なかった。
袖山は左右が対称ではないので右と左を間違えると形が変わる。
ウエストベルトにゴムが入っているのを発見！！伸縮できるようになっているみたい！
思った以上に部品が多くあった。特にウエストまわりは多くのパーツにわかれていた。
短冊は一枚の布としてくっついているとは思わなかった。
前立は一枚の布であるものと、前身頃を折り返してあるものとあり、すべて同じように作られているのではないのが意外だった。
短冊で一枚の布が使われていた。接着芯と縫い方で硬さが変わる。
裁断後、本当にこの枚数で一枚の服になるのかな、と少し多い気がした。
1つ1つに名前があることに驚いたし、大きいパーツと小さいパーツがあるんだと思った。
予想していた布の枚数の倍ぐらいありました。短冊がとても小さいが両そでにありました。前立の布が一枚ずつでした。カフスの布が一枚ずつでした。
カフスの部分が意外と大きいと感じた。後ろ身頃の形がベストみたいでおもしろいと思った。
短冊部分が裁断したら何の部分だったかわからなくなるくらい小さく感じた。
外見より枚数があり、何重にも折り重なっていたりした。接着芯がいかに多かった。
ダーツをほどくとラインにそって服が作られていることがよくわかった。
接着芯を使うことにより、ヨレにくくキレイなラインが出ていた。
思ったよりたくさんの布が使われていてシャツ一枚作るのもいろんなパーツがいるから大変だと思った。
ボタンホールとボタンが付いている部分が2枚の布からできていて驚きました。
多くの種類(名称)の布地からなりたっていることで服は難しいものだという印象を受けました。
1つのシャツに対して小さい布や大きい布を使われているのに驚いた。
袖は細いのにはいられたらすごく大きくて驚いた。
袖は思いより大きかった。
一枚の布だったことに加え、肩の部分にギャザーが入っていたので見た目より大きかったのだと思う。
袖のスリットの部分(短冊)も部品としてわかるということにびっくりした。
接着芯が袖ぐりにもあることに驚いた。前立があるものどないものがある。接着芯も一枚として数えるんです
裁断する前に数えながら11枚と予想したけど、19枚もの布が出てきたのでとても印象が変わったように思います。1枚の布で部品を作っていたところは非違げてみると形がとても変わって大きさも倍くらいになったのでとても印象が変わり、原形がわからなくなりました。
前身頃と後ろ身頃のダーツを取ると印象が唯の布といった風に見えました。
袖のカフス部分を裁断してみると、思ったよりも細かい構成になっていた。
背中だけで3枚も縫い合わせてあって、凝ってるんだなと思った。
同じパーツなのに切り離すと同じところとは思えませんでした。
一見簡単に見えるシャツでも何枚もの布が合わさってできているんだなと思いました。
わたが入っていたのが1番びっくりしました。
使われている枚数が多くてとても意外でした。
デニムは強い強度のためにたくさん縫い目があるんだなと知りました。やぶなやすい股部分、ファスナー部分は特に解体が大変だった。スポンは細かいパーツがあるんだなと思った。今までは全く気がつかなかった。
すごく頑丈に縫ってあった。
ヨークがあるとは思っていなかったので背中部分の部分がすごくしっかりと作られているということに気がついた。
たくさんの布でつぎ合っていた。
たくさんの布でつぎ合っていた。
2枚からできている所や1枚からできている所があり、予想と違った。また一着によって名称は同じでも形が異なるので見分けるのが難しかった。
短冊とカフスが一枚の布をくっつけてあることが印象が違いました。
ブラウス1枚作るためにこんなに布を使っているとは思わなかった。小さな部分でさえもちゃんと名前があった(前立て、ヨーク...)。小さいのにその部分が1つでもなくなると物足りなさがあると思う。
見た印象より多くの布を使ってブラウスが構成されていた。

本研究の最終年度として全体的に丁寧に授業を行った結果として、感想がこれまででもっとも詳細になった。特に洋裁用語、部分名称の使用頻度は目に見えて増え、さらにコメント内容としてもこれまで思っていたこと、解体をしたことで気づいたことが詳細に記述できている。ワンピース製作を控える被調査者の被服構成パーツの理解は深まり、普段着用している被服への興味もさらに強く持つよう促すことができたと言える。ただし、被服解体をすることで被服製作に対する苦手意識をもった、という印象を書いている学生が数名おり、この点については、知識を得ることによって難しいと思うのではなく、分かったからこそやってみようという前向きな姿勢を持てるよう、授業内での声掛けが必要であるよう感じられる。

5) 授業全体の印象記述について

筆者の授業では授業の終わりに授業全体を振り返り、どういったことを理解したかなどの感想を書かせている。昨年同様この調査日の授業においても行い、被服解体について記述したものを挙げる(表6)。

一昨年は16名中7名、43.7%、昨年は24名中22名、91.6%であり、今年は34名中33名と97%の記述率がみられた。昨年は連続授業であったため、被服解体が印象に残りコメントがしやすい状況だったという点からの記述率であるが、今年は一昨年のように二週にまたがって授業を行ったが、一昨年との違いとして、一週目後半と二週目すべての時間を被服解体に関わる授業にあてたため高い記述率であったと考えられる。

内容については、被服を解体することによってどのようなことがわかったのか、という具体的な記述をするよう指示を行ったため詳述してあるものが多く、部分名称や被服のデザインに関する専門用語を使ったり、それを今後も使えるようになりたいと書いたりする記述も目立った。この研究の一連の流れである基礎知識の獲得から既存の被服の構造理解という工程についての記述も見られ、基礎知識を習得することで今後の創作への知見を得たという見方をする学生が増えることはこの研究の目的でもあり、この被服解体という作業は被服製作実習の事前授業として有効であると結論付けることができる。

表6 授業全体の感想より被服解体作業に関する記述のみを抜粋

授業全体の感想
1枚の服ができるのに何枚も布やパーツがあってびっくりした。何枚もの布やパーツをかさねあわせることで立体的になるのはすごいと思った。 ネックラインや袖の名前や種類がたくさんあって驚いた。
細かく見るとたくさんのパーツと名前があった。実際に分けてみて名称がよくわかった。 パーツごとに分けたらカーブしているところがあるところが本当はまっすぐな布だったり、ただの長方形だと思っていたところが想像とは違っていた。 ドルマンスリーブやシャツスリーブはよく見かけられる形だが、他は全く見たことなかった。 服を解体したことがなかったけど、今回やってみて服のつくりが前よりわかるようになった。 部分ごとで布の枚数も違っててつくりも全く違った。
私たちが普段着ている服はこんなに多くのパーツからできていてこんなにたくさん縫っているということをあらためて実感する良い機会になりました。 流行りの袖の形やネックラインにもきちんと名称があったので被服を勉強している者として、ちゃんとした名称で呼びたいと思った。
解体すると、意外とパーツが多くてびっくりした。だけどすごく疲れました。 Gパンを分解するのは一苦労だった。普通のゴムパンじゃないズボンでもゴムが入っているのが驚きだった。
思っていたよりもたくさん布があり、自分で作るときにすべてを裁断するのはとても大変だと思った。
一番の服を作るのに、たくさんのパーツが使われている。 似たような服でも作り方が違うとわかった。
シルエットや切り替え、ネックライン袖には沢山の名前があるのだと思った。服の裁断ではたくさんの数が必要となるんだと思った。
シルエットや切り替えやネックラインや袖の名称がわかってよかったです。 不要服の解体は1つのブラウスが何枚もの布でできていることに驚きました。
シャツ一枚でもたくさんのパーツから成り立っているのに驚いた。 ファスナーの名前を知らなかったのも、勉強になった。作るものによって使い分けていることがよくわかった。
自分が思っていたより面積が広く、たくさん布が使われていることに気付いた。 分解してみると形自体がちがうものに見えるくらい印象が変わった。
今日まです洋裁の基礎である物や部分の名称を教えていただけで、忘れていた物も思い出すことができて参考になった。解体したものは部分がわかりやすくてわかりやすかった。
初めて服を解体したのでどんな仕組みかわかって作ってみたいと思った。1つ1つに名前があったり、ちゃんと形が違っただけで名前が変わるからおもしろかった。
洋裁道具、それぞれの名称を知ることができました。糸を切るのが大変でした。 シャツでも高いと思っていたがたくさんの布を使って会って、たくさん縫ってあるから値段もそれなりにするのだと思った。
糸を外していくのがものすごく疲れた。1枚の服が予想よりとても多い布で構成されていたので驚いた。解体した後どれがどの部分の布かわからなくなってしまったので、1つ1つ名称を確認しながら確認していけばよかった。名称はまだよくわからないところが多いので覚えていきたい。
裁縫道具の中身の今まで知らなかった名前をも知ることができました。袖の色々な種類や服の形も知ることができたので色々作りたいワンピースの想像がふくらみました。
初めて服の解体をしてみても思ったよりもとても丈夫に作られていたのに驚きました。実際に作るときに参考にしたいと思いました。
解体をして服の構成が大体わかった気がします。解体をするのは疲れました。パーツはたくさんあって、名称を覚えるのが大変そうだと思います。
普段着ている服を解体する機会がなかったのにとてもいい経験になりました。
解体は初めてでしたが何気なく着ているものも手が込んでいて服を作る大変さが伝わりました。1つ1つのパーツにちゃんと名前があることも知りました。服のレパトリーは幅広いのだと学びました。
解体する作業がとても疲れました。服の名称の名前を覚えていたらいいなと思いました。
毎日来ている衣服を解体してみても思っていたよりも枚数多くて驚きました。
服を作る工程のことを考えてみると服を作ることは大変だと思いました。
昔は一枚の布でできていた服もどんどん複雑に発展しているのだと思い知らされました。 バットウィングスリーブは中2くらい名前だと思った。自分が着ていたズボンをズバズバにするのは悲しかった。
解体はすごく頑丈にひっついていたので大変だった。スカートやシャツ、服の部分がたくさんあった。名前も違うので覚えるのが大変そうです。
服にはたくさんの形がありたくさんの名称があるので覚えるのが大変だと思った。ブラウスの解体はすごく大変で服はきちんと丈夫に作られていると分かった。
初めて裁断してみても、服の作りの深さがわかりました。色々なものを一つずつつなぎ合わせて1つの服が出来上がっているのだと改めて思いました。
ズボンを裁断したのは初めてだった。あんなにたくさんの布で合わせて1つのズボンにしていることが驚いた。名前も全く知らなかったのが知れた。
裁断することでたくさんの部分から1着の服ができていくことを知った。名称をすべてわかるようにしていきたい。
裁断してみても1つの服にこれだけ布が使われていることに驚きました。絵で服のパーツを見るより実際に見た方がわかりやすかったです。袖や袴の名前もたくさんあって、この袴はこれと名前が言えるようになります。
こんなに布が必要だと思っていなかった。また、模様があると揃えなくてはいけないうえ、方向を気にしたりと大変だと思ふ。部分の名前、道具の名前もどれだけ小さくても名前があるから覚えるのが大変だと思った。
ブラウスを解体するのは大変でした。多くの布を縫い合わせることで服は丈夫になっていることがわかりました。

おわりに

本研究は、一昨年昨年に引き続き、ワンピースという被服製作をその後の授業に控える学生に対して、被服構成の理解を支援するために、被服解体という作業を行わせるものである。一昨年昨年の結果をふまえ、作業内容を改善し、試みとして最終年度の授業を行ったが、結論を以下にまとめる。

被服解体そのものは被服構成の理解を助け、被服製作に対する意欲の向上を促すことができるが、被服構成を学生の意識に定着させるためには被服に関する部分名称や洋裁用具、デザインに関する専門用語の知識が必須であり、解体後には正確な知識の獲得のため詳細な解説をする必要がある、と言える。つまり、被服解体の事前・事後の指導が被服製作実習への支援においてなくてはならない過程であると言い換えることもできる。また、今回の研究において目的ではなかったものの、被服解体の経験は身近な衣服に対する制作工程・購入・廃棄などを考えるきっかけとなり、衣生活の質の向上を促す役割を果たすという意義を明らかにすることができたと言える。

最後に、実習授業に際して授業進行及び写真撮影等に協力いただいた植木由香実験実習助手に感謝いたします。

注

- 1) 「被服製作実習を支援する授業展開についての試み～被服解体を通して～」平成22(2010)年3月 広島女学院大学『生活科学部紀要』第17号 P.107～P.118
- 2) 「被服製作実習を支援する授業展開についての試み(その2)～被服解体を通して～」平成23(2011)年3月 広島女学院大学『生活科学部紀要』第18号 P.95～P.111
- 3) 『家庭科』第60号(621) 全国家庭科教育協会 2011年3月 P.17～P.20
- 4) 『福岡教育大学紀要 第5分冊 芸術・保健体育・家庭科編』第60号 福岡教育大学 2011年 P.215～P.221
- 5) 『きれいに作れるソーイングの基礎』 坂上のり子 日本ヴォーグ社 2010年 P.6～P.8, 『よくわかるソーイングの基礎Lesson』 藤井知子 主婦と生活社 2007年 P.12, 『はじめてのおさいほうBOOK』 木所未貴 成美堂出版 2008年 P.57, 『知りたいことがすぐわかる!ソーイングの基礎レッスン』 アップルミント 朝日新聞出版 2008年 P.65より引用, 加筆

図・表・写真出典一覧

図1 注5参照

表1～6 調査表を用いて筆者が作成

写真1～3 広島女学院大学 実験実習助手 植木由香氏撮影